

平成17年度

第4回理事会 議事録

1. 会議名 平成17年度「第4回理事会」
2. 日時 平成18年3月6日(月) 18時30分～21時00分
3. 場所 麻布霞会館(東京都港区西麻布3-2-32)
4. 出席理事 二木 英徳(会長)、朝倉 正昭(副会長)、高橋 明(副会長)、
福本 隆(副会長)、荒井 隆(専務理事)、石崎 朔子(常務理事)、
関田史保子(常務理事)、渡辺 守成(常務理事)、秋山エリカ(理事)、
池田真喜子(理事)、岩本 晃(理事)、上村 郁子(理事)、
岡 久留実(理事)、佐藤 昌子(理事)、崇島 慎一(理事)、
谷口 裕代(理事)、谷原 誠(理事)、橋本 千波(理事)、
藤島八重子(理事)、山崎 浩子(理事)、
田中 元(監事)、横田 章(監事)、
以上22名(うち委任状出席8名)
- 欠席理事 0名
- その他出席者 0名
5. 議長 社団法人 日本新体操連盟・定款第24条第2項により議長は二木英徳会長が務めた。また、議長の指名により進行は荒井専務理事が務めた。
6. 議事録署名人決定
定款第32条により、議長は議場に諮り、議事録署名人を福本副会長、荒井専務理事を指名した。
7. 報告事項
(1) **第8回全日本新体操チャイルド選手権実施報告**
定款第5条関連事項(説明者:池田真喜子理事)

今年度選手権において参加チームが357クラブチーム831名の参加があったことや大会結果を報告した。また、大会に関連して以下のことを報告した。
 1. 今大会から有料の全席指定席制度で行ったため、会場前の混乱等は見られなかったが観客席でのマナーの悪さが目立った。
 2. 参加選手の増加により日程的に現行制度では難しくなった。
実施報告終了後、理事より大会について指摘があり、審議した結果以下のようなになった。
 1. 二木会長より表彰式について不手際があった旨が報告され以後以下のように実施していくこととなった。
 - ①表彰状の準備をもっと適切に行う。
 - ②順位を付けない表彰には段差のない表彰台を準備する。
 - ③式典中の選手のトイレ対策などに役員を配置して対応するようになる。

2. 山崎理事よりキッズコンテストの参加選手の差がほとんどなく、現行の方式では表彰する選手を選ぶのが難しいので表彰方法を変更することが提案され以下のおり実施することとなった。

A. 表彰方式を「前もって表彰内容を決める」方式から「前もって表彰内容、表彰人数を決めず、審査結果から表彰内容を決める」方式へ変更することとなった。また将来的には「キッズコンテスト」を「チャイルド選手権」する方向性が確認された。

(2) その他報告

その他報告はなかった。

8. 審議事項

第1号議案 平成17年度総会について

<1>平成18年度事業計画について

定款第5条、第26条、第38条関連事項（説明者：池田真喜子理事）

3月22日（水）に平成18年度の事業計画と収支予算を決定する総会用資料が以下の内容にて承認された。

①クラブ選手権の年齢構成について

世界基準採用の「イオンカップ」と国内基準採用の「全日本選手権」の年齢構成が違うため選手年齢の問題があるが、「第15回クラブ選手権」の参加年齢区分は昨年度同様シニア選手15歳、ジュニア選手12から14歳で決まった。

②クラブ選手権のシードチーム制度の扱いについて

一部の参加者からシードチームの扱いが優遇されていると不満が出ているが、クラブの発展及び、無くしたときのデメリット等検討した結果、今後もシードチーム制度を継続していくこととなった。

③クラブ選手権「2部リーグ」種目数の変更について

現行1人1種目で開催している「2部リーグ」競技方法を、1人2種目にするという検討事項に対して、時間、経費の例を挙げ、競技日程、経費等が現行の2倍になるという理由により現行制度で開催することとなった。また、将来的には地方予選会を開催する方向で検討することとなった。

④イオンカップの日程について

2006年大会は「ワールドカップファイナル」と同時開催になるので変則日程で予定が組まれた。また、例年大会2日目に開催していた「日本新体操祭」は三重県開催、平日開催、スケジュールの不規則の理由により今年度休止することとなった。

⑤団体選手権「年齢区分」について

年齢構成を日本体操協会にあわせてジュニア選手“小学5年生～中学3年生”に変更することとなった。

⑥団体選手権「混成チーム」の表彰について

参加者から順位をつけてほしいという声に応え、選択種目別に得点をつけ、1位～3位まで表彰することとなった。

⑦団体選手権「全日本選手権」出場権獲得チームについて

11月開催の「全日本新体操選手権」へ2チームまで出場権を得たことが報告され、シニアの部1位～2位までに出場権を与えることとなった。

⑧チャイルド選手権「大会スケジュール」について

参加者の増加により、日程的に現行方式では実施が難しくなったことが報告され、東日本大会、西日本大会を予選会として開催し、東京で全日本大会を実施する形式で進めることとなった。会場が取れない場合は平成19年度以降で実施することとなった。

⑨各種セミナーについて

セミナーは例年通り開催することとなった。

<2>平成18年度予算について

定款第29条、第38条関連事項（説明者：渡辺守成常務理事）

平成17年度までは、文部科学省の指示の元3ヵ年計画の予算に基づいて作成されていたが、平成18年度から直近の実績を反映させて予算を計上することが説明された。

①年間事業予算について

「日本新体操祭」を今年度開催しないので予算0円で計上すること、「バジレット」が今年度より実施され目標300人で予算計上された。

指導者資格認定経費、審判資格認定経費は現状0円だが近いうち実施することの説明がされた。

今後ホームページ上で加盟登録できるようにするために、加盟登録経費を453,680円で計上した。

海外セミナーは最近参加者が減ってきており収支的にも厳しくなっているため検討が必要であることの説明がされた。

②各種大会について

各種大会については例年と大きく変わっているところはないこと、「チャイルド選手権」は開催方法によって予算が変更となることがあること、「イオンカップ」は今年度「ワールドカップファイナル」と同時開催の影響で三重県と収支を分けるので、例年に比べると減少することが説明された。

第2号議案 功労賞・優秀選手賞について

協議の結果

功労賞 福本 隆 副会長

優秀選手賞 該当者なし

となった。

第3号議案 その他について

- ①山崎理事から「チャイルド選手権5・6年生の部」の減点項目に修正を加えることが提案され承認された。
- ②山崎理事から「チャイルド選手権3・4年生の部」のレオタードについて規制を設けることが提案されたが、大会の趣旨、参加者の気持ちを協議した結果現行制度で実施することとなった。
- ③山崎理事から「チャイルド選手権3・4年生の部」のエンターテイメント賞などを賞として授与する方式から順位を表彰する方式が提案され承認された。
- ④山崎理事から今回の「チャイルド選手権」にロシアより小学生選手をエキシビションとして招待したが、今後も継続していくことが提案され経費を含め検討されることとなった。

9. 閉 会 議長は、議場に諮り、報告事項、審議事項の終了を確認し、21時00分に閉会を宣言した。

この議事録が正確であることを証するため、議長ならびに議事録署名人は次に署名押印する。

平成18年3月6日

平成17年度 第4回理事会

議 長 二 木 英 徳

議事録署名人 福 本 隆

同 荒 井 隆